

令和4年度 教育委員会の点検・評価 平塚市美術館協議会委員御意見（まとめ）

事業名	アートギャラリー等施設利用促進事業
事業の感想やコメント	
<p>○コロナによる影響下にもかかわらず、実績値が回復、上昇しているのはひとえに美術館運営スタッフ皆様のご尽力の賜物と思います。また、市民のアート活動も従前の状態に戻りつつあるものと推測できて、今後に期待が持てる内容です。</p> <p>○いずれの貸出施設も利用者数は回復してきており、適切な施設管理ができていていると思います。目標値は新型コロナウイルス感染症が現れる前に設定されたものであり、新しい生活様式が根付いた今日、その数値は見直されるべきものと考えます。</p> <p>○美術品の保存等、バックヤード的な状況についてはわかりませんが、ギャラリーやホール等は良好に施設管理ができていていると感じます。</p> <p>○アートギャラリー等の利用者数については、ここ数年、コロナ禍の影響で実績値が目標値に及ばないことはやむを得ないと思いますし、昨年度、今年度と増加して徐々に回復していて良い傾向にあると考えます。ただ、目標値との差が大きいため、目標値が高すぎたのか、実際にはもう少し実績値は伸びてもよかったのか、コロナ禍以前の実績値がわかりませんが、分析が必要と考えます。</p> <p>○アートギャラリーで展覧会が開催されているとホッとします。私の加入している2団体は観客は少なくとも（無観客でも）続けなくては、絵を描く気持ちを大切にしたいと開催しました。例年よりも来客は少なかったのですが、県外の客はホボ○</p> <p>○目標値の設定について検討されたい。 芸術を楽しんでいただくため、良好な施設を整備保存していくことが目標である。「来館者数」は、異なる視点からのoutputにすぎず、outcomeの視点からは、施設の補修整備状況に関する定性的な成果の記述がなされるべき。目標の数値化にとらわれる必要はないと思われる。</p> <p>○芸術振興のために、施設を貸し出すことは重要である。目標値と実績値が大きすぎる。目標の根拠、これくらいだろうで設定し、ああ少なかったねで終わるのはよくない。乖離の原因を究明すべき。借りた人が美術館本体の展示にどれだけ興味を持っているか。「陶のいきもの」を見ましたかと聞いたら反応がない。芸術を追求するものが他者に無関心なのに驚いた。今、何をやっているのか。PRのあり方を再検討。</p>	

今後に期待すること

- ミュージアムコンサートの再開など、コロナ以前と同様にイベントや企画を今後も開催していただきたいと思います。
- 今後とも、安心して利用できる環境の維持に努めていただきたいです。
- 人が訪れて美術の鑑賞や体験をするためには快適な空間が条件になると思いますので、来館者が気持ちよく美術館が利用できるよう今後も施設の維持管理に努めていただきたいと思います。
- 今後、新型コロナウイルス感染防止対策は徐々に緩和されていくと考えますが、市民の中には不安を感じる方もいらっしゃると思うので、しばらくは一定の感染対策も継続しながら、またその対策も明示しながら、市民が安心して諸事業に参加できるよう配慮していただきたいと思います。
- コロナも少なくなり、今後のアートギャラリーの利用団体が増えると全室の会場予約ができるのか心配です。毎年恒例で全室開催を目指している団体の会長にとって最大の重荷です。
- アートギャラリーは静かに鑑賞するだけでなく、意見を言い合える場所であっても良いと思っています。

事業名	美術教育の普及・体験事業（ギャラリートークの実施）
事業の感想やコメント	
<p>○想定よりも参加者が少ない印象でした。コロナ禍の影響でしょうか。大人数を集めるような開催形態のギャラリートークなどは、未だ集客が難しいのかもしれませんが。開催告知方法の検討や開催形態をハイブリッド（対面&遠隔）にするなどの方策が必要かもしれません。</p> <p>○拝見した令和4年度事業報告資料には1月9日の特別館長講演会98名、1月13日のアーティストトーク25名といった記載がありますが、それはこの「美術教育の普及・体験事業（ギャラリートークの実施）」ではなく、別票、例えば「美術教育の普及・体験事業（ワークショップの開催）」に計上されているのでしょうか？ それとも単なる漏れでしょうか？</p> <p>○ギャラリートークやアーティストトークの実施について、トークの場面があることでコロナ禍では様々な懸念もあり、参加者が少ないことはやむを得ないと思います。しかし、コロナ禍以前より参加者が見込めない状況であっても、全てを実施したことに意義があったと感じました。見てもらうだけでなく、作品や作家等について広く市民に伝えることも美術館の大切な役割の一つと考えるので、今後も積極的な取り組みをお願いしたいと思います。</p> <p>○今後、コロナ対策が緩和された後は、トークイベントの回数を増やしてみてもいいのではないのでしょうか。作者によるアーティストトークは難しい面もあるかもしれませんが、学芸員によるギャラリートークなら機会を増やせるように感じます。</p> <p>○友人はギャラリートークが大好きで良く参加しているようですが、私はまだ参加したことがありません。友人は何時するのか気をつけているようです。</p> <p>○富岡さんのアーティストトークに参加しようと予定に入れたが、結局不参加。26万人も市民がいるのに、たった20名程度ではもったいない。「参加していただきたい」と思っても市民は足を運ばない。知らないのか、興味が沸かないのか、都合がつかないのか。市会議員、市の職員、まわりの企業の従業員、真意を聞いてみたい。</p>	
今後に期待すること	
<p>○本物の作品や直に作者と接して作品の成り立ちなどについて知ることは、芸術的知識、関心を深めることにつながり、とても有意義な事とされますので引き続き継続していただきたいと思います。</p> <p>○本書式と事業報告資料の整合性をわかりやすくしてほしい。</p> <p>○現在もコロナ禍の影響が残る中、年ごとに参加者数も回復してきています。今後、感染防止対策は徐々に緩和されていくと考えますが、市民の中には不安な方もいると思いますので、しばらくは感染防止対策も施しながら、安心して諸事業に参加できるよう配慮していただきたいと思います。</p> <p>○友人のように気をつけている人は良いのですが、私のような者は、ある事に気がつかなかったり、知っていても日時が合わなかったり、気づいたら終わっていたです。ギャラリートークがあることを広く知られていないのではないかと思います。</p>	

事業名	美術教育の普及・体験事業（ワークショップの開催）
事業の感想やコメント	
<p>○実績値が回復、増加していることは喜ばしいことです。 インターンシップの再開とも関連しますが、同氏たちによるワークショップは新たな観点で興味深い試みがなされておりましたので期待したいです。</p> <p>○令和4年度事業報告資料を拝見すると、アウトリーチ事業（職員が美術館の外に出て行う普及事業）は対話による美術館鑑賞事業の事前授業に限られるように見えますが、正しい理解でしょうか？ 限られた人員でのワークショップの実施や学習活動の受け入れなど、相当な努力をされていることは理解できますが、少しベクトルを変えることも、美術館活動の広報や来館者増に寄与するのではないかと思います。</p> <p>○コロナ禍ではありましたが、感染対策や人数の調整をして講座を実施していただいたことに感謝します。</p> <p>○ワークショップに参加した事はありませんが、子どもの絵画教室ではアシスタントをしました。子どもたちを見るのは楽しく勉強になりました。参加してみたいと思った事業が親子になっている事が多い気がしました。</p> <p>○目標値の設定について検討されたい。 ワークショップの開催は、当館の誇るべき事業。多様な階層を対象とし、その内容の充実度は近隣には見られないもの。前項目同様、「来館者数」に加えて、その実施内容の効果を定性的によって評価を行うべき。そして、その評価内容が外部に示されるべきと思われる。</p> <p>○この取り組みには頭が下がる。参加者が少ないのは残念だが、将来きっと成果や目に見える形で返ってくる。スクールプログラムの参加者が10名前後の幅がある。これは、正常値、期待値ですか。</p>	

今後に期待すること

- 参加者の内訳や動向について知りたいです。リピーターと新規参加者の割合などを踏まえ、その拡充を検討できると良いと思います。
- 神奈川県立近代美術館では、「近代美術館入門講座」として近隣市の施設で開催中の展覧会についてレクチャー講座を開催しています。近い施設は、美術館から1.5キロしか離れていませんが、それでもその付近にお住いの特に高齢の方がいらっしゃいます。たとえ距離が近くても、例えば市役所や市内の大学でも、そうしたレクチャーやその他のイベントを開催することは考えられませんか？
- 美術への関心と親しむ人を増やす目的の体験学習活動として、幅広い年齢層を対象に気軽に美術活動に取り組める事業はとても素晴らしいことだと思います。今後も継続して充実させていただきたいと思います。
- 現在、中学校現場では部活動の地域以降の課題が出ています。運動部だけでなく文化部も含めた地域移行についてはなかなか見とおりがつかないのが現状です。今後、美術に親しみたい生徒の活動について、地域移行がどうあるべきか。またどういった手立てがあるのか、美術館がどうかかわることができるのか、一緒に考えていきたいです。
- 公民館で開催できなくなってる裸婦デッサン（クロッキー）を開催してほしいです。少子高齢化の時代です。高齢者に興味のある事があっても良いのでは。
- 地道な努力が美術を愛する市民を育てる。子どもたちが自分の才能に気づく機会を与え続けてほしい。一人でもルーブル美術館に絵が掲げられるような芸術家がうみ出されるといい。絵を描くことが一生涯の友となる契機を与えられれば、それがたった一人であっても有意義である。
- バックヤードツアーをもっと面白いものに。ただぐるっとまわって終わりではつまらない。建物からはじまり特徴を前面に。

事業名	魅力ある美術展覧会事業
事業の感想やコメント	
<p>○例年通り、興味深く充実した内容の展覧会を開催されたと思います。ただ、思いのほか来館者数が伸びなかったのは、コロナの影響によるものだけでしょうか。</p> <p>例年、春季や夏季に開催される展覧会がメディアなどに取り上げられ、その効果もあり観覧者が増加していたように記憶しています。TVなどでの紹介は美術館サイドの思うようにはいかない部分も多々あるとは思いますが、やはり広報効果は否めない昨今ですので、引き続きご検討をお願いいたします。</p> <p>○令和4年度の実績値が伸びないであろうことは、大家の個展がなく、若手の個展とテーマによる展覧会のラインナップから想定内のことでした。令和4年度事業報告資料には記載されていませんが、このことは図録の販売数にも反映されているだろうと想像します。</p> <p>特に、「リアルのかぐえ展」と「時代の自画像展」の構造（十数名の近現代作家の組合せ）が似ていたことから、後者に不思議な既視感を覚えましたので、せっかくの素晴らしい企画内容を活かすためにも、似たような組み立ての展覧会の開催時期はもう少し離れた方が良かったのかもしれない。</p> <p>○7月～9月の「市制90周年記念 工藤麻紀子展」「こどもたちのセレクション展」は夏休み期間も含み、来場者も見込まれる時期ではありましたが、新型コロナの第七波とも重なり、影響を受けてしまったのではないかと推察します。</p> <p>○「こどもたちのセレクション展」は、親子のコミュニケーションを図ることを目的としたプログラムとあり、こうした企画は美術に関心をもつ若い世代の育成の視点でもよい取り組みであると感じました。</p> <p>○周囲の人に聞いてみたところ「リアルのかぐえ展」が良かったと思う人が多い。私は「けずる絵 ひっかく絵展」です。それぞれ興味、着眼点が違っているようで答えはバラバラでした。多様性があって良かった。</p> <p>○絵はむずかしい。画家の意図を汲み取るのは。また画家も何故そうなったかがわかっていないケースもあるだろう。学芸員がこう見てほしいを文章にして掲示する。来場者はそれを読んでほっとする。素人に画家の願いを伝える。そんな展示が多かったような気がする。</p>	

今後に期待すること

- 展覧会の内容やクオリティーは市立美術館としては屈指のモノだと思います。引き続き興味深い展覧会の開催をお願いいたします。
展覧会の関連事業について、従来のギャラリートークや作家のワークショップ以外にも様々な方法を御検討いただければと思います。
- 上記の通り、図録販売数等含め支出と収入に係ることは、与えられた令和4年度事業報告資料には一切記載されていません。以前の協議会でも希望したところですが、当方は美術館の実務経験者として参加させていただいています。そのため、事業の点検評価をする上で、費用対効果について検討する資料を提供していただければ幸いです。つまり、限られた予算内での学芸員の工夫や努力に、まったく光を当てることができません。なお、平塚市議会は3月22日に表決が行われる予定ですから、3月28日に開催される次回協議会には令和5年度の美術館の事業予算についてある程度お知らせいただけるものと期待しています。
- 本物の美術作品に触れることができる展覧会事業であってほしいと同時に、来館者や市民の美術的なニーズ（こんなものを見てみたい等）を把握し、企画展時に生かすことで、新しく美術館に足を運ぶ市民の獲得を図ってみてはいかがかと思いました。例えば、今年は湘南ベルマーレが例年より注目されていると思うので、何かコラボ企画を立ててみるなど、スポーツ等異分野との連携を模索してみるのも面白いのではないかと思いました。（これは単に面白い企画で来館者数を増やすということではなく、広く美術館に興味関心を持っていただく意味での話です。）
- 激しい、荒々しい、煩い、汚いと感じる絵は年のせいが見たくなくなっています。そういう絵があるから清、美、静の絵が快く感じられるのは重々知っていますが。
- 美術館のよし悪しは学芸員で決まる作者の高名さに忖度せず自分の目を信じて、堂々と私見を絵の横に見やすい大きさの文字で添えてほしい。名前で絵を見る素人との違いを見せつけてほしい。巡回して説明を加える機会をもっとふやすべき。午前、午後それぞれ最低でも1回は欲しい。観覧料にはこれが含まれていると思ってください。

事業名	美術品の調査・収集事業
事業の感想やコメント	
<p>○所蔵作品をデータベース整備＝公開件数を目標値として定め、それを達成しているのは評価に値します。データベースへのアクセス状況はどのようになっていますでしょうか。</p> <p>○博物館法の一部改正でも「博物館資料に係る電磁的記録を作成し、公開すること」と明記されましたので、デジタル画像公開件数を目標とすることは時宜に適っていると思います。</p> <p>○美術館WEBでの画像公開の件数については、美術館や所蔵作品について広く知ってもらえるツールとして有効であると思います。</p> <p>○この2年間、購入0点については、予算との関係もあると思いますが、計画的に0なのでしょう。それとも、寄贈寄託に頼らざるを得ない状況なのでしょう。市の財政難の中、意図的な購入のための予算立てができるのか心配です。</p> <p>○「おうちで美術を楽しもう！」すばらしい企画。WEB公開は自宅では見えないのですか。</p>	
今後期待すること	
<p>○作品収集については、良い機会に恵まれれば収蔵品の充実を図って頂きたいです。データベース整備についても継続して御取組み頂きたいです。</p> <p>○寄贈・寄託だけで所蔵作品の充実を図ると、コレクションを形成する上での主体性が揺らぎかねません。僅かでも購入する予算が措置されることを期待します。また、所蔵品を継続的に充実させていくためには、将来の収蔵空間の確保も長期的視点で検討していただきたいです。</p> <p>○基準に沿った作品の収集ができ、所蔵作品が充実するよう願っております。</p> <p>○井上三綱の絵、集めてください。</p> <p>○学芸員に毎年「この絵を購入したい」「この絵を借りて展示したい」「このアーティストを招いて話を聞きたい」を書かせる。学芸員の館外研修、館内研修など彼等を育てるプログラムを充実させる。NHKの日曜美術館以上のものを作りWEBで公開する。⇒当館の今を知らしめる。外注を使わず自前で制作する。</p>	